

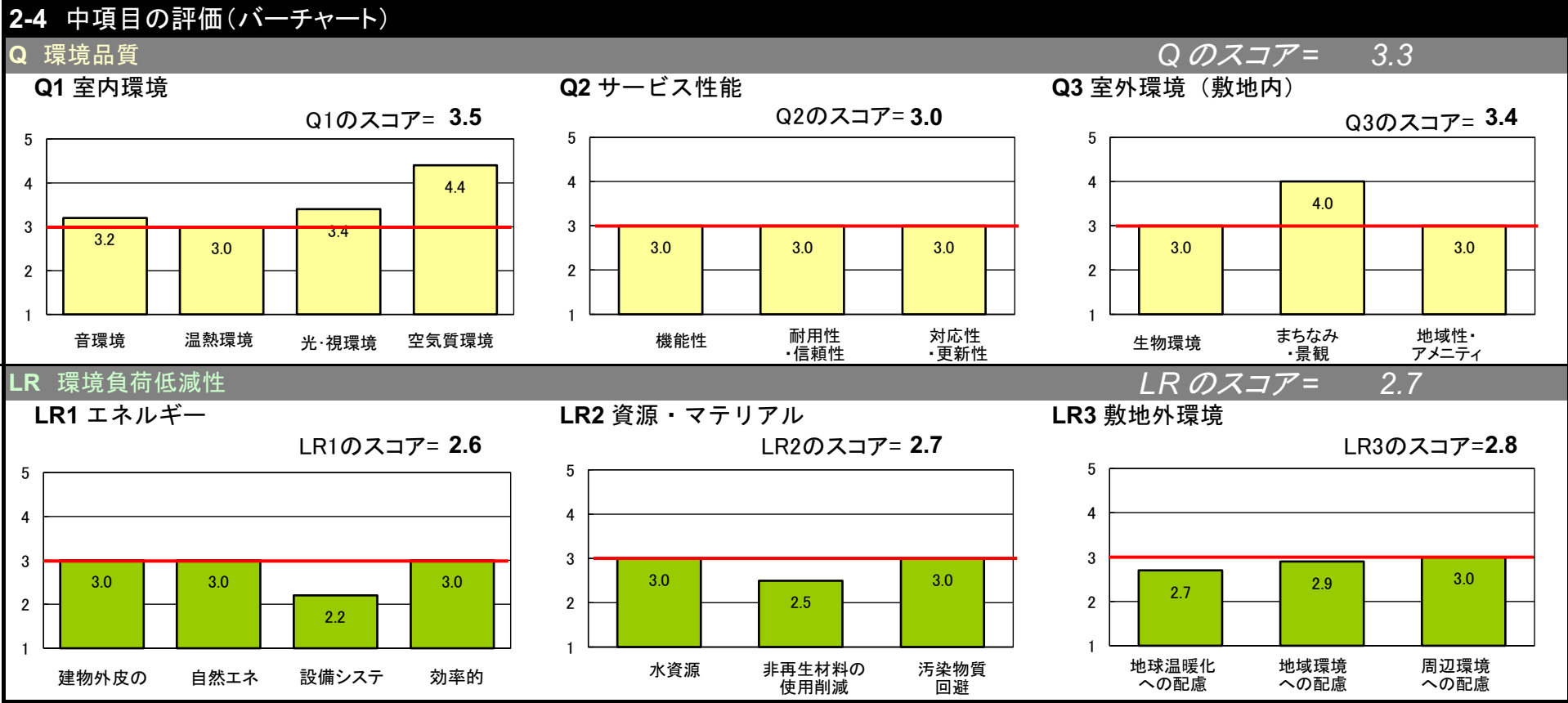
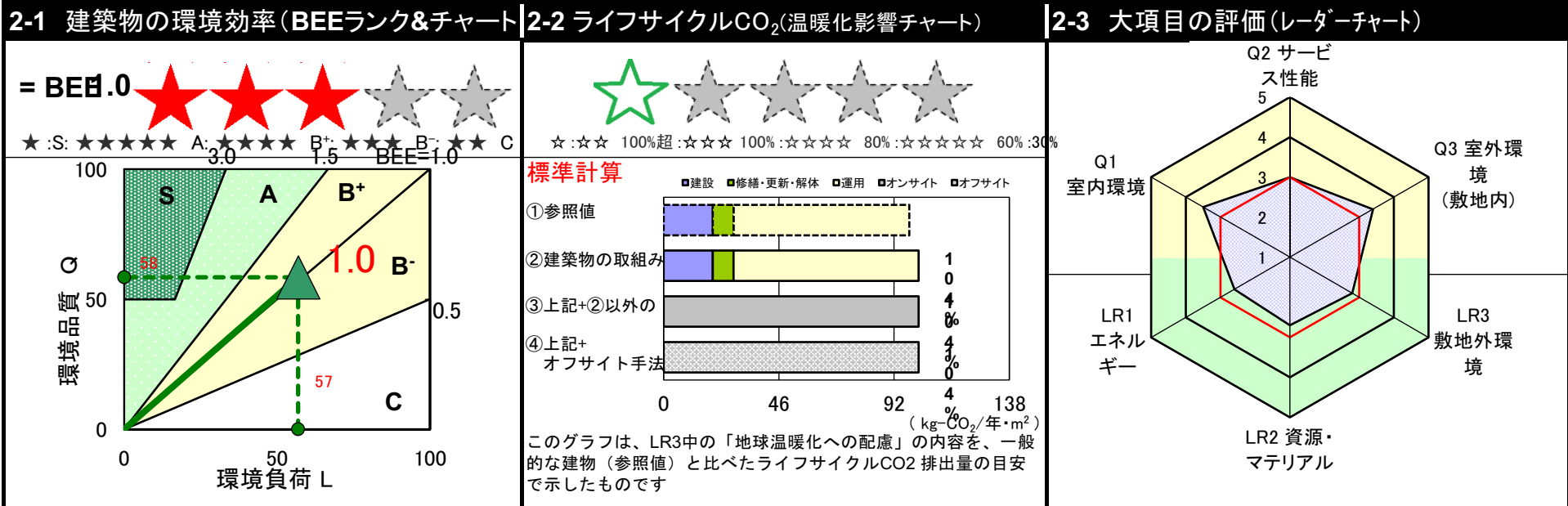


■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2016 | 使用評価ソフト：CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)エスリード栄一丁目	階数	14
建設地	名古屋市中区栄一丁目1804番	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域(集団防火)、緑化地域(10%)、市街化区域、特定用途誘導地区、駐車場整備地区、都市機能誘導区域、居住誘導区域内	平均居住人員	104 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,640 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2022年11月 予定	評価の実施日	2021年6月14日
敷地面積	542 m ²	作成者	
建築面積	281 m ²	確認日	2021年6月15日
延床面積	3,325 m ²	確認者	

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください



3 設計上の配慮事項	
総合	その他
収益性を確保しました。	
Q1 室内環境 底やカーテン(レール)を採用し、日射熱不可の低減を行う等、居住空間の快適性に配慮しました。また、シックハウスに配慮して、全面的にF☆☆☆☆の内装仕上げ材を使用しました。	Q2 サービス性能 主要な配管にC種以上を採用して、更新間隔に配慮しました。
LR1 エネルギー 高効率のエアコンやLED照明を選定し、省エネルギー性を向上させました。	Q3 室外環境 (敷地内) 緑化を行い、良好な景観の形成に配慮しました。
LR2 資源・マテリアル 節水型器具を採用し、水資源使用削減に努めました。	LR3 敷地外環境 敷地内での駐車、駐輪場の確保に努め、居住者の利便性に配慮した。(路上駐車や路上駐輪が少なくなるようにした)

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)エスリード栄一丁目

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				2.7
LR1	エネルギー	2.6	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	2.7	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				3.1
Q3.1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	有	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				2.7
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.6	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 2.7



2. 自然共生

評価点 = 3.1



3. 循環型社会

評価点 = 2.7



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。